

丸山湿原群保全の会会報

(第 190 号)

発行日：2023 年 (R5) 5 月 17 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com

戦争は最大の環境破壊と差別を生み出します！

田植えの準備が始まったかと思えば、もう終盤を迎えています。最近では苗を自分で作る農家が少なく、育苗場からの購入。自分で作るとなれば結構手間とリスクが伴います。

昔の手植え時代は苗代を作って種蒔き、成苗まで育てての田植え。現在は田植え機用の苗箱に種をまき育てます。発芽に失敗したり、苗がうまく育たなかったりすると田植えに使えなくなることも。苗がなくては田植えができない。田植えができないとお米ができないということに。じゃーその時点で購入、となると売り切れ！どうする百姓！と相成ります。で、最近ではほとんどが予約購入となっています。作っているのも近くの組合。よく田植えの日に合わせて安定して作れるもんだと感心します。経費は倍ほどかかりますが、ありがたいことです。

さて、前回心配していたツバメですがやはり少ない。近くの福祉施設ではコシアカツバメが例年以上の賑わいをみせているようですが、普通のツバメは極端に少なく感じます。いつもなら田んぼを作り始めると巣作り用に泥を取りに来るのですが、その姿もない。虫が極端に少なくなっているのが原因という説もあります。今年のツバメが少なければ来年のツバメも…

お米も含め、肝の部分がしっかりしないと繋がっていかないのは当たり前。最近そんなことをよく考えます。SDGs はもてはやされていますがね～。

(今住 5 月 13 日作成)

定期活動 ★4 月 23 日 (日) 作業として看板清掃。立ち入り禁止看板整備。7 人で活動。

4 月に入り湿原内の作業は基本休止。(植物保護のため)今回は遊歩道に県が設置している看板



古い看板のお掃除 アベマキはどこよ？

づらい。でも、「ふれてみよう！！」と書いてあるのにアベマキがない。「オイオイ」と来られた方に怒られそうです。こんなことを言っていると、別の誰かから怒られそうですが…もう一つは「アカマツ モチツツジ群集」。これも遷移の問題なのでしょうが、アカマツは枯れてほとんどない。リョウブが占有する林です。この分類は遷移した場合変更されるものなのでしょうか？



新しい看板のお掃除 はげ山は見える

現れるかもしれません。自然に優しい樹脂で処理。まだ「お話」の段階です。期待しましょう！写真を見ると同じ会員が一人だけでやっているように見えますが、実はだいたいそう…いえいえ周

りのササを刈ったり、仕上げのふき取りをしたりちゃんと活動しています。(見守りを含む…)

この日作業中確認できたのは、トンボではシオヤトンボ(塩屋蜻蛉)。湿原内にはやっとヤチカワズスゲ(谷地蛙菅)が出てきた程度。歩道からはマルバアオダモ(丸葉青楸)、ヤマツツジ(山躑躅)、ウワミズザクラ(上溝桜→これは漢字で覚えると混乱します)が目立ちました。ウワミズザクラについてはサクラ属から外れているそうなので、「あれもサクラや!」というのはやめましょう。ウワミズザクラ属だそうです。以前にも書きましたが、占いの木ハハカ(波波迦)として「古事記」に登場したり、アンニンゴ(杏仁子)などの地方名もたくさんあるようです。アンニンゴとしては実を塩漬けにして売っていたり、ホワイトリカーに漬けたりとかなり利用されているようです。もちろん天ぷらにも。誰かやりませんか?結構低い位置にありますよ。でも採取は???か?キイチゴ食べてるし、アケビも食べてるし、カンサイスノキしがんでるし、オオウラジロノキの実でリキュール作ってるし…知らんで…湿原ではなく里山部分。里山とは?人が利用するから里山?知らんで~

そうそう、おいしいといえばウグイスカグラ(鶯神楽)やミツバアケビ(三葉木通)も咲いていました。実はおいしい…知らんで~。

あと奇跡的にトリガタハンショウヅル(鳥形半鐘蔓)もまだ花を残していました。これは食べられない…残念!何の話

や。どうもすいません。あくまでもこれは作業の延長線上での観察ですのでご容赦ください。看板は本当にきれいになっています…以上。

看板の台も傷んできていますね。これはちょっと秘密兵器が



シオヤトンボ



マルバアオダモの花



ウワミズザクラ(ハハカ・アンニンゴ)



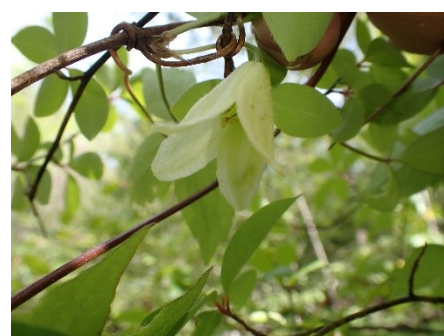
ウグイスカグラ



ヤチカワズスゲ



山の中にはチゴユリ



まだ咲いていたトリガタハンショウヅル

GW にこっそり ★5月5日(祝) **blog の書き込みに誘われて、1人で隠密行動。**

実は田んぼの準備で忙しく、GW には人も多いのではないかと思いきや行かないつもりだったのですが…blog に久しぶりのコメントが入っていました。いつもの「匿名」さんです。最近お会いしないしコメントもいただかないので、「丸山離れ」されたのかと思っていました。実は私たちより頻繁に来られているよう。ありがたい。そこには情報が、「ツチアケビ(土木通)が1本だけ出て

ますよ」と。

実は、ほぼ毎年確認されているツチアケビ(腐生蘭・菌従属栄養植物)が芽を出しません。ついに菌を食い尽くしたのか、はたまた周囲の「菌ネットワーク」を踏みつぶしたのかと心配しておりました。何度も書いてますが、私はあまり好きな植物ではありません。しかし歩道脇に見事に咲き誇り、赤い実がなる姿は丸山湿原エントランスの象徴のようになっています。ガイドの時にも「いいネタ」としてありがたい存在でした。それが出ない! 「う〜ん」と思っていた矢先のコメント。

ほだされて見に…**ジャコウアゲハ(麝香揚羽)**が迎えてくれました。しかしツチアケビは「な〜い?」「はは〜ん」さすが丸山通の「匿名」さん。別の場所を探したな、と想像し秘密の場所へ。「あるかな…」アスパラガス1本立ち! これがうまく成長して花が咲き

実がなるとは限りませんが、とりあえずネタ確保させていただきました。感謝いたします。多分自分でも見つけてたけどね…と負け惜しみ。

ついでに周囲を観察。**キンラン(金蘭)**数株発見。時期的には**ギフチョウ(岐阜蝶)**の孵化時期。ちょっと探してみようとゴソゴソ。

ヒメカンアオイ(姫寒葵)のかじられた葉っぱを裏返します。いました。ちっさい毛虫。(毛は少ないですが)しかもかたまって身を寄せ合っています。近くには出てきた卵の殻も。まだ残っている? ような卵もありました。孵化するかどうかは不明。多くのチョウは卵の殻を孵化すると食べるようです。栄養分の補給とか天敵に見つからないようにとか説は色々。ところが**ギフチョウ**は殻を食べません。理由は不明ですがここで想像。ギフチョウの食草に毒があるので天敵が来ない。もしくは幼虫が毒草を食べるので殻を食べる必要がない。どうだまいったか。エビデンスなし。妄想です。

さらにウロウロすると、**ギンリョウソウ(銀竜草)**がこれもまた1本だけ生えていました。これも菌従属栄養



ツチアケビ新芽

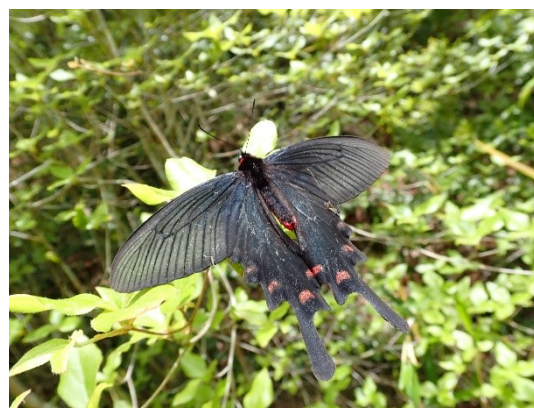


キンラン



ギンリョウソウ (幽霊茸とも)

ウ(銀竜草)がこれもまた1本だけ生えていました。これも菌従属栄養



ジャコウアゲハ オス



ギフチョウの卵殻 まだ入っているのも



卵の数と一致 幼虫

養植物。キンランも部分的菌従属栄養植物というそう。このような植物が生える場所こそ「森の聖域」と南方熊楠も述べているそうです。丸山湿原群周辺は「聖域」なんですよ！西谷の山には結構あるから西谷の里山は「聖域」と呼んでいいかもです。里山放置林だけど「聖域」？

改めて里山復活を考えてしまいました。なぜか真面目です。

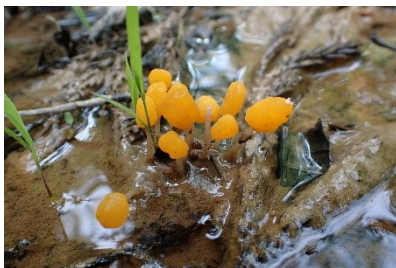
定期活動 ★5月13日(土) 基礎調査 観察 ゴミ回収 10名(オブザーバー2名含む)

目的	市内	市外
丸山	33	45
登山・ハイキング	79	56
散歩	23	18

来場者数計 254 人
(竹筒ポスト集計)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
入口	10:00	20.1℃		
第3湿原	10:36	【18.3℃】	30.1 μS/cm	6.3
視点場	10:59	23.8℃	27.1 μS/cm	5.8
第1湿原	11:16	【22.3℃】	28.8 μS/cm	6.6
第2湿原	11:39	【19.5℃】	32.1 μS/cm	6.9

集合場所に行ってみるとお若い方が2名。調査などでお目にかかっている方です。偶然と言われたましたが、実は「待ち伏せ」と考えています。冗談です。とにかくいい機会、一緒に基礎調査と観察に向かいました。



水生キノコ カンムリタケ

水の中からキノコ？今まで見たことがなかったので驚きました。竹筒ポストを確認すると、足の多い「虫」(節足動物)が…多分オオゲジ(大蝨)。見た目で嫌悪感を感じる人もいますが至っておとなしく、ゴキブリなどを食べるので「益虫」として扱われています。手に乗ってもとってソフトな感じが気持ちいい「虫」です。ゲジゲジ眉毛のゲジ。実はとっても身近な生き物だったんでしょね。手のひらぐらいの大きさです。き

ツツジ(藜躑躅・餅躑躅)、ツクバネウツギ(衝羽根空木)を眺めていると妙なものを発見。平場の溝の中から黄色い変なものが。葉はない。これも菌従属栄養植物か？「いやキノコやで」の意見も。持ち上げてみると水に浸かった杉葉から生えている。やはりキノコということで納得。調べてみると「水生キノコ」のカンムリタケ(冠茸)のようです。

っと近くにもいます。ちなみにゲジゲジ(蝨蜒)は古名だそうです。水質等の確認をしながら生き物観察。ハッチョウトンボ(ハ丁蜻蛉)が出ていました。オスもメスも。早い？記録を調べてみると2018年に同時期記録がありました。ちょうど微妙な時期なのか？オブザーバーの方が望遠でばっちりファインダーに収め、ご提供下さいました。ゲジ君も。トキソウ(朱鷲草)も出ていてもおかしくない。あると思って探すこと数分。ありました。第4湿原の南側。こちらもリクエストして望遠で撮影していただきました。たった1輪の咲きかけ。



オオゲジ



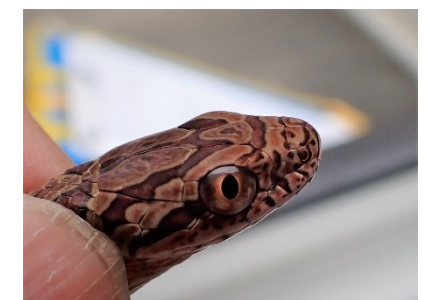
ハッチョウトンボオス未成熟



ガガンボを食べるメス

(blogでご覧ください)ありがとうございます。すぐ増えてくると思います。

最後に現れたのが駐車場倉庫の屋根から落ちてきたヘビ。美しい！でもよく見ると瞳孔が縦に見えます。「マムシ」？違うとは思いながらその時は縦の瞳孔に引っ張られました。写真で確認すると。ピット器官(熱センサー)なし。頭も普通の形。目が赤かった。シマヘビ(縞蛇)の幼蛇に決定。よかった。マムシに擬態しているそうです。そろそろマムシの季節、お気を付けください。



シマヘビの幼蛇 美しい

次回活動日 5月28日(日) 6月10日(土) 25日(日) 午前作業・午後総会(詳細は別便で)